

岐阜県教販通信

No.0023

GIKYOHAN TIMES

2022年9月発行

「教員」という仕事

当社は岐阜県の全小中高校に100年以上教科書を供給し続けてきて2021年度に、「スクーラーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。スクーラーライブラリーの詳細情報は当社HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーでご確認もできます。読書感想文コンクール開催(2022年11月1日日本の日開催)の締め切りは9月30日です。詳細は当社HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp/>) 記載アしてありますのでよろしくお願いいたします。

愛媛県新居浜市で活動している28歳のアーティスト石村嘉成さんのアトリエを訪れたのは、今年6月のことだ。自閉症による発達障害を抱えながらも市内の公立小中高等学校を卒業し、版画、油絵などの作品で幾多の賞を得る活躍ぶりは、オフィシャルサイト (<https://i-yoshinari.jp/>) で是非ご覧いただきたいと思う。わたしが刮目した作品の数々だけでなく、彼を育てたご両親の思いをも知ることができる。

その石村さん宅のギャラリーに、一通の手紙があった。岐阜県の先生方にも読んでいただきたいと、ご紹介する次第である。01年に近所の小学校の普通学級に入学し、介助のため毎日共に登校したお母様が、1年後担任の石川先生に書き送ったものだ。〔読みやすくするため改行してあります〕

【石川先生 この一年間は本当にお世話になりありがとうございました。また心のこもったお手紙をいただき、一年前、先生が担任して下さることが決まり、「お母さんお勉強よりも、もっと大切なことがありますからあまり他のお子さんに迷惑がかかる等々ご心配しないで」と言ってくださり、それからいろいろなことがあり… というお手紙を読みながら思わず涙がこぼれてしまいました。

嘉成がいつも人の迷惑になっていないか、お世話ばかりかけて申し訳ないという気持ちの私にとってこの一年間接していただいた、先生や友達から嘉成君と一緒によかった、と言っていたことが何よりうれしい言葉です。思えば入学前から不安で、不安で常に「嘉成を無理して普通学級に入れてよかったのか？嘉成にとってクラスの皆さんにとって、どうなのか？」の問いの繰り返しでした。しかし、私が黒子として(少々嘉成にとっては強引な黒子ですが!)学校に行き見た様子は、子供たちの純粋なやさしさに支えられている嘉成の姿でした。

今日の下校時も、一年生の仲間二人が「よしなりくん、がんばってえらかったね。」と声をかけてくれました。私も思わず「みんなもえらかったよね～」とありがとうの気持ちを込めて答えていま



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

た。以前、障害児をもつ先輩のお母さんから、良い先生のもとでは本当に良い子供集団が育つと聞いたことがあります。一年生からそんな経験をさせてもらった私共親子は幸運だったと思います。これからのまだまだ長い小学校生活の中ではいろいろと思えばなくはない場面が出てくるかと思いますが、良いスタートをきれたのだから、きっと頑張っていけると思います。(中略)

障害児を持ったことで予想外の人生になりましたが、こうやって支えてくださる人達にお会いでき、感謝しながら過ごす日々の思い出は、私の一生の宝です。嘉成が大人になった時、この一年間を思い出し、自分の言葉で「先生あの時はありがとうございました。」とお礼を言いに行ける日を夢見ています。石川先生、本当にありがとうございました。】

先生方には、この手紙の価値の尊さがわかるだろう。直接の現場でなく長年教育行政に携わってきた私にもそれはわかり、思わず涙ぐんでしまった。石川先生の仕事ぶりや人柄が鮮明に伝わってくる。

教師という仕事に人気がなくなり、志望者が減って困っている。…というネガティブな報道を目にすることが多い昨今だ。たしかに、労働時間の問題や処遇の問題については根本的見直しが必要だろう。しかし一方で、教師という仕事のすばらしさを広く社会に知ってもらうことも重要だと思う。

こんな手紙をもらえる仕事が、他にあるだろうか。